

特定非営利活動法人 元気みなと (理事長 吉田 明宏、境港市)

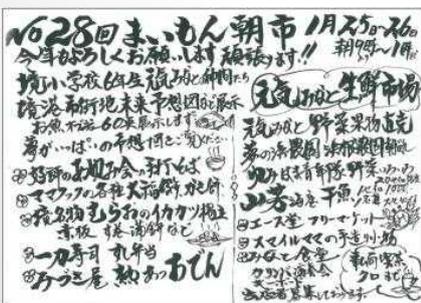
「元気みなと」まちづくり事業

【取組に至った経緯】

水木しげるロードは、境港の産物を扱う店が少なく、地元の人々や観光客に提要して本来の境港の魅力を多くの人に知ってもらえる場所が必要と感じ、また崩壊しつつある地域のコミュニティの中心となり、人と人をつなぐ役割を果たす場所としても活用しようと取組を開始した。

【取組概要】

朝市の開催、さかなのオブジェの設置、水産加工品「イカカツ」の販売、映画祭、ジャズライブ、親子釣り大会の開催、地元の学生とのコラボ活動など。



要約筆記の会「虹」 (代表幹事 村田 美佐子、米子市)

字幕つきプラネタリウム上映会

【取組に至った経緯】

「聴覚障がい＝手話」というのが一般的なイメージであるが、手話ができない、苦手な方にとって「要約筆記」は重要な情報保障手段である。しかしながら、「要約筆記」自体聴覚障がい者の方の中での認知度が低い。また、聴覚障がいの方向けの音声バリアフリーの娯楽も少ないことから、要約筆記の啓発と娯楽の提供を目的として活動を実施。

【取組概要】

米子児童文化センターのプラネタリウムについて、要約筆記を作成し字幕として投影、また、補聴器を使って音声情報を得ることができる「磁気誘導ループ」を利用するなどして、上映した。



中華コスプレプロジェクト (代表 古川 哲次、湯梨浜町)

中華コスプレ (アジア大会)

【取組に至った経緯】

テレビドラマのロケ地となって以降、集客数の減少する湯梨浜町の燕趙園を活用し、鳥取県への観光客誘致及びサブカルチャーの発信のため活動を開始。

【取組概要】

湯梨浜町の燕趙園を舞台に中華風の衣装を身にまとった「中華コスプレ」の大会を開催し、国内外から参加者を募り、サブカルチャーの発信、鳥取県の観光PRなどを実施した。



子どもたちと綿をつくろう会 (会長 門脇 紀文、境港市)

渡小学校の子どもたちと綿をつくる活動

【取組に至った経緯】

江戸時代から栽培の続く地元特産「伯州綿」を子どもたちと栽培し、収穫した綿から製品を作る過程を体感、学習し、先人の労苦やもの大切さを学ぶことを目的に、地元小学校校区内に居住する住民有志によりボランティアを組織して活動を開始。

【取組概要】

地元小学校の6年生と小学校周辺の畑を借り、児童、地域住民で畑の整備、綿の栽培に取り組んだ。その過程で「伯州綿」の歴史について学び、収穫した綿は風呂敷に加工し、卒業記念品として児童、栽培に関わった地域住民に頒布した。



朗読ボランティアやまびこ会・憶良を語る仲間 (代表 森脇 恭子、倉吉市)

今よみがえる伯耆国守・山上憶良

【取組に至った経緯】

万葉歌人として名高い山上憶良が伯耆国守であり、倉吉に居住していたであろうことを地元でも知る人が少ないため、その生涯や短歌、国守としての業績を顕彰し、地域の誇り、短歌の文化の醸成を目的として活動を開始した。

【取組概要】

倉吉市内の小学校10校、中学校2校に対して出前事業を行い、また国語の時間に山上憶良の代表的な短歌や歴史的背景を紹介した。



永江地区自治連合会 (会長 松井 克英、米子市)

支え愛の店ながえ

【取組に至った経緯】

平成12年に町の中心にあったスーパーマーケットが閉店したが、住民の高齢化、独居又は二人暮らしの高齢者が多くなり、今後買い物支援が必要な方が増えると予想される。これを受け県の「地域支え愛体制づくり事業の補助金」の助成を受け、商店を立ち上げた。

【取組概要】

町のほぼ中央にある空き店舗を借りて、生活に必要な日用品、生鮮食品、お菓子等を販売。交流スペースを設け、地域の情報交換、喫茶コーナーでの住民の交流を促進している。また、草取り、障子貼りといった困りごとの手伝いも実施。

